



追悼

大友信勝先生を偲んで

戸田 典樹
東京通信大学

本学会名誉会員の大友信勝先生が、2025年5月14日に満81歳でご逝去されました。先生は秋田県南西部の由利（当時は「前郷」）で生まれ育ちました。中学校では新聞部に所属し、東北農村の窮迫した生活実態を自由に記録する「生活綴り方」（北方性教育運動）を通して、調査・取材・表現の方法を学ばれたということです。また、新島襄らの伝記に触れ「学問とは金儲けや立身出世のためではなく、社会的に最も困難な立場にある人々の暮らしを守るものである」と確信されたと振り返っておられます。

1962年、日本福祉大学に入学される頃、長く闘病生活を送っていたお母様を亡くされました。家計が厳しく、仕送りに頼ることもできない中で、アルバイトと奨学金による不安定な生活を送りながら学業に励まれました。大学では高島ゼミに所属し、浦辺史氏、浅賀ふさ氏など、多くの先達の生き方から学ばれました。また、ヤジエ・セツルメントでの活動を通じて、自らの社会福祉観を確立されました。

卒業後は8年間、秋田県の北秋田・仙北福祉事務所において生活保護ケースワーカーとして勤務されました。当時は、産炭地の失業者を生活保護から排除する第2次「適正化」期と呼ばれる厳しい時代でした。先生は保護申請の抑制や違法な「推定収入認定」を行わず、結果として地域の保護率を上昇させました。「特別監査対策として、なぜ保護率が高いのか根拠を示すこと」という上司の指示を受け、先生は「秋田県阿仁町における貧困問題の一考察」をまとめられました。さらに、秋田県社会福祉研究会を設立し、専門性の向上、身分の確保、公的扶助行政の民主的運営をめざす自主的研究運動を組織されました。

その後、福祉現場での経験を踏まえ、暁学園短期大学（現・四日市大学）、日本福祉大学、東洋大学、龍谷大学、中部学院大学、聖隷クリストファー大学大学院などで教鞭を執られました。日本福祉大学では窪田暁子氏、金持伸子氏らとともに「被保護母子世帯調査」を実施し、白沢久一氏、高野史郎氏らと公的扶助の研究交流を深められました。東洋大学では学位論文『公的扶助の展開—公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』をまとめ、「福祉川柳事件の検証」など、公的扶助研究運動の通史を体系化されました。

龍谷大学では大学院社会学研究科長や社会学部長などの要職を歴任されました。市場化する社会福祉の潮流に対して「社会福祉とは何か」を問い直し、社会福祉学会では「政策・理論フォーラム」の企画・運営に携わり、『福祉政策理論の検証と展望』を編集されました。さらに永岡正巳氏らとともに社会福祉の歴史と原理が社会福祉士養成課程からはずれることへの危機感から『社会福祉原論の課題と展望』を執筆されました。

この時期、私は龍谷大学大学院社会学研究科博士課程に入学し、先生のご指導を賜りました。私が滋賀県大津市役所を経て会津大学短期大学部に勤務し、1年が過ぎた頃、東日本大震災に伴い東京電力福島第一原子力発電所事故が発生しました。被災者支援に携わりながら博士論文を執筆

する中で、常に先生が温かい言葉で励まして下さったことを忘れることはできません。

その後、中部学院大学や聖隷クリストファー大学大学院に移られた先生とは、さまざまな共同研究を通じて多くの地域を訪ねました。まず、生活保護利用者の社会的自立支援の必要性を訴える『韓国の新たな自立支援戦略』を執筆するため釧路市や韓国各地を訪問しました。さらに、「避難の権利」を訴える『福島原発―漂流する自主避難者たち』を執筆するため当時すでに紛争が起こっていたウクライナのチェルノブイリ原子力発電所を訪れました。さらに、避難者の困難な状況を記した『福島原発事故 取り残される避難者』を執筆するため福島県内を周りました。

さらに「社会的に最も困難な立場にある人々の暮らしを守る」という理念に基づき、先生が自分史、教え子たちが障がい・高齢・貧困・法制度などのテーマを『社会福祉研究のこころざし』としてまとめています。

現在、世界では紛争や戦争が続き、明日の命すら保障されない人々が存在しています。「自国ファースト」を掲げるポピュリズムが台頭し、利用者の生活を無視した生活保護基準の引き下げや避難者の生活再建を放置したまま原発再稼働政策が進行しています。このような暴力、飢餓、差別、格差、自己責任が正当化される政策に対して、社会福祉は沈黙を保っていてよいのでしょうか。とりわけ社会福祉研究者は、先生が主張してきた「社会的に最も困難な立場にある人々の暮らしを守る」ため改善や解決策を提起する責務があるのではないのでしょうか。

困難な立場にある人の生存や自律が脅かされている今の時代にこそ、先生の教えは社会福祉によって活かされると確信しています。大友先生、ご指導、本当にありがとうございました。どうか安らかに眠りください。必ずバトンをつなぎます。